

# 令和 3 年度 小林市立三松小学校 学校関係者評価書

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営		学校経営ビジョンキーワード：「協同（継承） 自立（発展）」			
ビジョン		将来の夢実現のために、助け合う、教え合う、協力し合う児童同士の協同力を高め、自立しようとする児童の主体性を育成する。			
項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等（○成果・●課題・☆改善策）	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知育	<p><b>重点目標：基礎・基本の確実な定着及び思考力・判断力・表現力等の向上</b></p> <p>■手段</p> <p>1 基礎・基本の定着</p> <p>2 読解力・思考力・表現力等の育成</p> <p>3 授業力の向上</p>	<p>○ 1分前着席はよい。</p> <p>○ タブレットの活用が進んだ。</p> <p>● 「ぐんぐんタイム」の時間と内容が一致しない。学級の実態に応じた内容にしていくと良い。</p> <p>● 「聴く」に課題が見られる。</p> <p>● 貸出冊数の伸びはないが、授業中や昼休みなど本にふれる機会を多く作ることができた。</p> <p>● 教え合い、練り合いを活発にさせるための教師の発問の工夫の改善が必要である。</p> <p>☆ 専科授業での1分前着席があまりできていない。教室から、早めの移動を指導したらどうか。</p> <p>☆ 新聞投稿を頻繁に行っている学校（須木小など）の活動方法を聞いてみたらどうか。NIE や読書活動の推進に密接に関係するだけでなく、掲載されることで子どもの意欲にもつながると考える。</p> <p>☆ 10分のぐんぐんタイムでは、やっていることが中途半端で力になっている実感はない。宿題の丸付けや授業のやり直しなど、何か学級の実態に応じた学力向上対策のほうが効果がある気がする。</p> <p>☆ 作文投稿は学級の取組に差がある。週末課題として取り組ませたい。</p> <p>☆ 朝のぐんぐんタイムを、あと5分確保できないか。</p>	3.0	3.5	<p>○ 1分前着席で、授業が落ち着いて開始できることは、素晴らしい。授業だけでなく、学校生活全体での落ち着いた雰囲気は、このような指導の積み重ねの賜物だと思う。</p> <p>○ 立腰や返事など、基本的な学習習慣の日常指導については、継続して取り組んでいただきたい。</p> <p>○ タブレットの活用で、児童の学習意欲が高まっている一方、「聴く」ことに課題がある。児童を聴き上手にする方法を全職員で検討するとよい。</p> <p>○ 図書指導については、まず児童に興味をもってもらうことが大切である。自分が読んで面白かった本を紹介したり、読み聞かせのリクエストをしたりするとよいと思う。また、昨今は新聞を購読しない家庭が多いので、学校で新聞に触れる機会を設けていただくこともよいと思う。</p> <p>○ 「教え合い」、「練り合い」の協同力を高めるために、児童が主体的に取り組む授業、授業の行動化を推進していく必要があると思う。</p> <p>○ 新聞への作文投稿は、年間計画（〇月は〇年生）を立てて計画的に取り組む必要がある。地域の方にも目に付きやすく、児童の自信につながるのととてもよい取組だと思う。</p> <p>○ 作文によって、児童の観察力や感受性が養われます。どう書くのか分かりやすく教える教師の指導力向上にも役立つと思う。</p> <p>○ 「ぐんぐんタイム」は、基礎的・基本的な学力を身に付けるのに有効である。今後は内容や方法、時間設定などを再検討して、取り組む必要があると思う。</p> <p>○ 高学年教科担任制は、教員の負担軽減にも役立つと思う。積極的に導入して、学力向上にも努めてもらいたいと思う。</p>
徳育	<p><b>重点目標：自他の存在、きまり、礼儀の尊重及び豊かな心の育成</b></p> <p>■手段</p> <p>1 基本的な生活習慣の定着</p> <p>2 豊かな心の育成</p> <p>3 いじめや不登校の早期発見・早期対応</p>	<p>○ 会釈は、よくできている。</p> <p>○ 手洗い・消毒は校内放送のおかげもあり、よく定着している。</p> <p>○ 「みまつ会議」の時間設定といじめにつながる言動を指導しやすい掲示資料がありがたかった。</p> <p>○ 毎月のアンケートにより、大きな問題になる前に解消できているケースがある。</p> <p>○ QU で指導者が気付いていなかった児童の不満足感等を知ることができ、指導に役立てることができた。</p> <p>● あいさつは個人差が大きい。感染症予防を考えると「大きな声で」とは指導しづらい。</p> <p>● 何かしら児童相互の問題は起こり、「魅力ある学校づくり」の道半ばである。</p> <p>☆ コロナ禍において、声を出してのあいさつを遠慮する子どももいると思うので、会釈の励行を積極的にしどうしたらどうか。</p>	3.2	3.4	<p>○ あいさつは、お互いに心が結びつくように、「声を出すあいさつ」を指導してほしいと思う。</p> <p>○ みまつ会議を通して、児童の自主的な活動が更に広がることを期待したい。</p> <p>○ キャリア教育の視点で、児童に身に付けさせたい能力として「コミュニケーション能力」が挙げられる。相手の立場や気持ちを理解し、自分についてもわかりやすく伝えることができる児童が増えることを願っている。</p> <p>○ 児童相互の問題があっても、教師がそれに対処することで児童が変わり、教師の指導力が高まると思う。</p> <p>○ コロナウイルス感染症対策については、様々な場面で工夫した取組がなされており、クラスターを回避して、児童の安全に過ごせる場所が提供できたと思う。</p> <p>○ 道徳としての「悪いこと」と現実が結び付かないことが多い気がする。</p> <p>○ 不登校、いじめ0については、家庭訪問、関係機関の助言を得ながら、早期発見、早期対応に努めてもらいたいと思う。</p>

学校経営 ビジョン	<b>学校経営ビジョンキーワード：「協同（継承） 自立（発展）」</b> 将来の夢実現のために、助け合う、教え合う、協力し合う児童同士の協同力を高め、自立しようとする児童の主体性を育成する。				
項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等（○成果・●課題・☆改善策）	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
<b>体育 ・ 食育</b>	<b>重点目標：基礎体力、食育推進及び望ましい健康生活習慣の定着</b> <b>■手段</b> 1 基礎体力及び運動能力の向  2 保健指導の充実・病気の予防と治療率向上  3 家庭と連携した基本的な生活習慣の定着及び食育の推進	○ 体力向上プランを受けて、三松サーキットを作成、実施している。 ○ 指導の徹底により、現在のところ校内の感染者無し（1 / 2 6 現在） ○ う歯治療率は、85%をこえる見込みである。（3 / 4 現在） ○ 健康観察カードにも項目を設け、朝ごはんを食べない家庭には声かけをしてきた。 ○ 給食感謝週間、弁当の日（3月11日予定）は予定どおり実施できた。 ○ 食事のマナー向上、正しい箸の持ち方指導は予定どおり実施できた。 ○ 栄養教諭と学校栄養職員の給食指導も予定どおり実施できた。 ● 食事のマナー、箸の持ち方は家庭の協力も大いに必要がある。 ● 昨年度に比べて体力テストの結果が芳しくなかった。外遊びを励行していきたい。 肥満率が高いのも関係しているかもしれない。 ☆ 前年度の体力テストの結果が芳しくなかったため、体力を向上する運動は行ったが、期待どおりの結果ではなかった。次年度は事前に実施方法などをしっかり指導した上で、計測等を行うとよい。 ☆ 箸の持ち方の継続指導をしていきたい。 ☆ 学級通信、懇談会などで啓発をする。食事のマナーの振り返りカード、食育の取組のワークシートを作成し、家庭でも取り組んでもらう。	3.1	3.3	○ 児童の体力の低下は、児童の生活環境の変化と大きな関係がある。体力は、日常的に継続して運動しないと高まりません。保護者に、「登下校を歩いて」と更に啓発するとよい。 ○ 来年度は、参観日の学級懇談会等を通して、食事のマナー、箸の持ち方、弁当の日、外遊び、肥満、う歯治療などの啓発をして、連携を強化すると同時に、地域生産者の活用も推進してほしいと思う。 ○ 鉛筆に付ける「もち方くん」は、箸の正しい持ち方につながります。使用が成果につながるとよいと思う。 ○ 朝ごはんの摂取率は、どれくらいだったのだろうか。取組の効果を数値として提示してほしいと思う。 ○ 今、児童がサーキットトレーニングやストレッチ運動に取り組むことは、成長してからのけが防止になるので、体力向上プランに基づき、体育の指導を行ってほしいと思う。
<b>特別 支援 教育</b>	<b>重点目標：特別支援教育の充実</b> <b>■手段</b> 1 学校全体で取り組む支援体制「全ての教職員が取り組む特別支援教育」  2 特別支援学級児童に係る交流学級と協同した支援  3 就学指導の計画的実施	○ 必要に応じて教職員の手引きを有効に活用できた。 ○ 次年度に向けて、リーフレットを作成した。 ○ 通常学級、特別支援学級ともに必要に応じて保護者の面談を行い、合意形成を図る際には、管理職も立ち会った。 ○ 日常的に各特別支援学級担任がそれぞれの児童について、交流学級担任と情報交換ができた。 ● 「個別の指導計画」を年度初めに各交流学級担任にも見ていただく必要があった。 ● 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」が期限内に作成できていなかったところがあった。	3.2	3.4	○ 特別支援教育の充実を図るため、学校全体で取り組む支援体制が構築されていることは、たいへん素晴らしい。 ○ 教職員の手引きの活用とリーフレットの作成、管理職も立ち会った保護者面談、交流学級担任との情報交換など、きめ細やかな取組がなされていると思う。 ○ 小林小学校の通級指導教室や家庭児童相談室などを活用することによって、当該児童や保護者にプラスになる可能性が少しでもあれば、積極的に紹介するとよいと思う。
<b>次年度の方向性についての 校長所見</b>	① 令和4年度は学校経営ビジョンを「児童の協同力を高め、自立しようとする児童の主体性を育む」とし、協同と自立をキーワードに、共通実践を継続して行う。 ② 重点取組項目は、職員が決めた内容を重点的に取り組んでいく。 ※ ①及び②については、別紙参照				